

夏ノ四裏

のおこなひ心にあかねどもくまのゝかたへ
参らんと思ひたちてゆくみちにいと哀
のみまさりて

世のゆを思へばなべてちる花を

わが身をさてもいづちかもせん

かやうに修行へしゆぎやうして又都にかへりきて
むかししり侍りしとを尋てまかりし

ほとに雲にもなりにければ正月二日志賀へしが
の里へかたがひにまかりしにあひくして